

つたえよう おもいで いろいろ 一年生 「おもいでブック」をつくろう

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力・自己理解

単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説国語科第1学年及び第2学年、「B書くこと」の指導事項(1)「ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」の内容を受けて設定したものである。

本単元では、学習指導要領の「B書くこと」の言語活動例(2)「イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。」を基に、生活科「もうすぐ2ねんせい」の学習と関連させ、小学校生活で経験したことを振り返り、お家の人に心に残ったことを伝える文章を書く言語活動を位置付ける。

本単元では、1年間の学校生活を振り返り、強く心に残ったことを題材として文章に書く。そして書いた文章をお家の人に読んでもらい、「おもいでブック」という自分の文集にまとめる。経験した事柄から書くことを決め、題材に必要な事柄を集める力や書きたい事柄の順序に沿って簡単な構成を考える力をつけることをねらいとしている。小学校に入学してからの1年間を振り返り、いちばん心のこった出来事を書くことは、児童にとって意欲的に取り組むことができる活動であり、1年間の「書くこと」の学習のまとめとなる。書いた文章をお家の人に読んでもらい、まとめた「おもいでブック」を読み返すことで、1年間に培ってきた書く力を自覚することができ、文章を書くことのよさを感じて次年度へ向かうことができると考えられる。

○ 児童観

本学級の児童は、家庭学習で日記文を書くことを続けており、自分の生活経験を思い出しながら文を書くことには慣れてきている。「おもいで出しかこう」では、経験したことを思い出して、時間的な順序に沿って文章を書くことを学習した。図画工作科で行った学習を共通の題材として、文章を書いた。思い出した事柄を教師と一しょにカードに書き、時間的な順序に並び替えて文章に書いていった。共通の経験であったため、ほとんどの児童が経験した事柄をカードに書くことはできたが、8%の児童は教師の支援が必要であった。カードに書く内容は行ったことが中心で、「見たこと」「聞いたこと」「思ったこと」などのように様々な観点から事柄を集めることは経験していない。文章を書く段階では、カードの内容を原稿用紙に文章を写して書いている児童がほとんどで、カードの内容以外に文章を詳しく付け加えて書くことや文末を「です」「ます」に変えて書くことが難しく、個別に指導しながら作品を完成させた。また、原稿用紙の使い方や3段落構成、かぎ(「」)の使い方について、理解して書くことができる児童は25%で、原稿用紙に文章を書くことに課題がある。

○ 指導観

本単元では文章に書く題材を自分で選び、5つの観点から思い出し、自分でカードに書き、文章にまとめることができるようにしたい。そこで、情報の収集の過程では、1年間の学校生活の写真をスライドショーで提示して思い出を振り返らせる。その時に感じたことを振り返り、話し合いながら自分が作文に書きたいことを1つ選ぶようにする。決められない児童には、一しょに写真を

見返し、思い出を話しながら最も心に残った事柄を決めるよう助言する。図画工作科との関連をはかり、最も心に残った出来事を絵に表し、自分が書きたい内容を明確にする。かいた絵を基に、どんなことを文章に書きたいのか、①「したこと」や②「見たこと」、③「聞いたこと」、④「話したこと」、⑤「思ったこと」の5つの観点を意識して事柄を思い出せるように「さく文のたね」カードを用意する。そのカードに短い文で書かせ、「おもいでボックス」という自分の箱にためて題材を集めるようにする。その際、会話文も意識して書くようにするため、かぎ（「」）を使って書く形式を用意する。

整理・分析の過程では、選んだ題材の中でも特にどんなことを文章に書きたいのかを明確にさせ、集めた「さく文のたね」カードの中から更に文章に書きたいことを①「したこと」カードを中心として選び、そのカードに関係する②「見たこと」、③「聞いたこと」、④「話したこと」、⑤「思ったこと」を加えて、時間の順序に沿って並び換えさせる。そして、「始め－中－終わり」の構成を意識して、ワークシートに整理させ、下書きができるようにする。モデル文を参考にして書き方を確認し、「さく文のたね」カードに沿って下書きをさせる。この時、文末を「です」「ます」の形に書くことやかぎ（「」）の使い方に気を付けて会話を入れるようにする。

完成した文章を、お家の人に読んでもらい、その感想を学級で交流させ、書く力がついたことを相互評価させる。文章を書くことよさを感じ取らせ、次年度への意欲に結び付けたい。最後に、自分の「おもいでブック」を作り、まとめとしたい。

単元の目標及び内容について

- 心に残った出来事について伝えるために、進んで文章を書こうとする。 【関心・意欲・態度】
- 小学校に入学してから楽しかったことやうれしかったことをお家の人に伝えるために、経験したことの中から伝えたいことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。 【書くこと ア】
- 小学校に入学してから楽しかったことやうれしかったことなどを文章に書いてお家の人に伝えるために、書きたい事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 【書くこと イ】
- 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（オ）】

単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
【言語活動】 1年間の学校生活を振り返り、心に残った出来事を文章に書く。		
心に残った出来事について伝えるために、進んで文章を書こうとしている。	1年間の学校生活で経験したことの中から伝えたいことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めている。 書きたい事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使い、文章を書いている。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	・学校生活で経験したことをお家の人に伝えるために、集めた事柄を整理したり、さらに必要な事柄を思い出したりして、簡単な構成を考えて、文章を書こうとしている。	・学校生活で経験したことをお家の人に伝えるために、書く題材に必要な事柄を集めて、簡単な構成を考えて、文章を書こうとしている。
【思考力】	・最も紹介したい出来事と関連付けて、効果的な事柄を選んでいる。	・最も紹介したい出来事と関連付けて事柄を選んでいる。
【自己理解】	・他の学級の友だちに伝えることができた達成感をもち、文章を書くことよさを感じ、今後の学習へ学びをつなげようとしている。	・書いた文を他の学級の友だちに伝え、文章を書くことよさに気付いている。

指導と評価の計画

全 10 時間

次	時	学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
		生活科 「いちねんかんをふりかえろう」 ○入学してからの1年間を振り返る。					
一	1	課題の設定（1） ○お家の人に学校生活で経験したことを知らせようと意欲をもち、文章を書く必要性に気付く。 ・スライドショーで1年生の思い出の写真をしながら振り返りをし、学習意欲をもつ。 ・書いた文章をお家の人に読んでもらい、「おもいでブック」を作るというゴールを確認し、学習の見通しを立てる。	○			・お家の人に学校生活で経験したことを紹介することに意欲をもち、文章を書くことに取り組もうとしている。	行動観察 発言
	2	情報の収集（3） ○日記を読み返したり、写真を見たりして、1年生での出来事を思い出し、書きたいことを1つ選ぶ。 ・楽しかったことを学級全体で共有する。		○		・日記を読み返したり、写真を見たりして、1年生での出来事を思い出し、書きたいことを1つ選んでいる。	行動観察 発言
二		図画工作科 「せんせいあのね」 ○経験したことの中から、楽しかったことを絵に表す。					
	3	○かいた絵を基に、どんなことを文章に書きたいのかを「さく文のたね」カードに書く。 ・①したこと②見たこと③聞いたこと④話したこと⑤そのときに感じた自分の気持ちを「さく文のたね」カードに書く。 ・「さく文のたね」カードを、自分の「おもいでボックス」に入れる。 【本時】		○		・書こうとする題材に必要な事柄を5つの観点をもとに書いている。	「さく文のたね」カード 行動観察

次	時	学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
二	4	<ul style="list-style-type: none"> ○「さく文のたね」カードを詳しくする。 ・書いたカードを読み、もっと詳しくしたいこと書く。 ・会話の「さく文のたね」カードに、かぎ（「」）を使った文章を書く。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・詳しく思い出し、「さく文のたね」カードを修正したり、加えたりしている。 	「さく文のたね」カード 行動観察
	5	<p>整理・分析（１）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が文章に表したいことを「さく文のたね」カードから選び、書く順序を考えて並べる。 ・モデル文で、文の書き方を確かめ、自分の「さく文のたね」カードの中から書きたいことを選ぶ。 ・「始め—中—終わり」の構成を意識して書く順序を整理する。 ・会話文を入れて書くことを確認する。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が文章に表したいことを「さく文のたね」カードから選び、書く順序を考えて整理している。 	行動観察 ワークシート
	6	<p>まとめ・創造・表現（３）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○整理した「さく文のたね」カードを見ながら、下書きをする。 ・構成を意識して、出来事や行動の順序に沿って並べたカードをもとにして書く。 ・最後の段落に、思ったことを書く。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことが伝わるように、構成を意識して、出来事の行動や順序に沿って下書きをしている。 	下書き 行動観察
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○下書きを読み直し、表記の間違いなどを直す。 ・かぎ（「」）の使い方を見直す。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・下書きを読み直し、表記の間違いなどを正している。 	下書き 行動観察
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○清書をする。 ・清書をし、したことや気持ちがよく分かるように書いているか読み直す。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・清書をし、読み直しをしている。 	作文 行動観察
		<ul style="list-style-type: none"> ・完成した文章を、お家の人に読んでもらい、感想を書いてもらう。 ○「おもいでブック」にまとめる。 ・文章を書いた順に作品を並べ、表紙をつけて「おもいでブック」を完成させる。 					
三	9	<p>実行（１）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「おもいでブック」を読み、「1年間を振り返って」という作文を書く。 ・この単元で学習したことを活用し、文章を書く。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことを活かして、作文を書いている。 	行動観察 作文
	10	<p>振り返り（１）</p> <p>学びのモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・情報を集める力、書く力の自らの学びを振り返り、今後の書くことへの学習に向けて意欲をもつ。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを振り返り、今後の書くことの学習に向けて意欲をもとうとしている。 	行動観察

本時の学習

(1) 本時の目標

- かいた絵を基に、どんなことを文章に書きたいのかを「さく文のたね」カードに書くことができる。

(2) 本時の評価規準

- 書こうとする題材に必要な事柄を絵から思い出し、観点を意識して「さく文のたね」カードに短い文で書いている。 【書く能力】

(3) 本時の学習展開（3時間目／全10時間）

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p>
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>めあて</p> <p>「さく文のたね」カードにおもい出したことをかこう。</p> <p>本時のゴールの見通し</p> <p>A：自分がかいた絵を基に、作文に書こうとする題材に必要な事柄について観点を意識して集め、カードに書いている。</p> <p>B：自分がかいた絵を基に、作文に書こうとする題材に必要な事柄を集めてカードに書いている。</p>	<p>◇かいた絵を基に、どんなことを文章に書きたいのかを「さく文のたねカード」に書いていくことを確認する。</p>	
<p>2 「さく文のたね」カードに書く文の書き方を確かめる。</p> <p>○絵を基にして、どんなことをカードに書いていけばよいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て思い出したことを書いていけばいいのだな。 ・はじめに①「したこと」を3つ書くのだな。 ・次に②「見たこと」や③「きいたこと」、④「はなしたこと」、⑤「思ったこと」を書くのだな。 <p>3 「さく文のたね」カードに思い出したことを文章で書いていく。</p> <p>○おうちの人に伝えたいことを書いていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちこうえんですべりだいをすべりました。 ・三さこ川でいっぱい虫をとりました。 ・きれいなこえでうたおうとおもいました。 ・むかしあそびをして、こまをまわせるようになりました。 ・どんなことをきいたかな。 ・はなしたことがあったかな。 	<p>◇さく文のたねカードに文章を書く掲示をし、「したこと」から書けばよいことをおさえる。「中」の段落に入る「したこと」の3つの文章をはじめに書き、3つのカードを中心にして、「どんなことを見たのか」「どんな音が聞こえたのか」「どんな話をしたのか」「思ったこと」を「さく文のたね」カードにどんどん書き出していけばよいことをおさえる。</p> <p>◇「したこと」「見たこと」「聞いたこと」「話したこと」「思ったこと」の5つの観点のどれを書いた文章なのか「さく文のたね」カード内に○印をつけるようにする。</p> <p>◆「さく文のたねメモ」に書いていくことが難しい児童には、絵から思い出すことができる見本の「さく文のたね」カードを個別に提示していく。</p>	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p>
<p>4 書いたカードを読み、観点別に分類する。足りない観点について、思い出したことを書く。</p> <p>○並べた「さく文のたね」カードを見て、どんなことに気が付きましたか。</p> <p>・「きいたこと」と「はなしたこと」のカードがすくないな。</p> <p>・かきたしたいな。</p> <p>・「見たこと」カードにもかきたいな。「いもほり」では、大きいものがいっぱいあったことをおもい出した。</p> <p>・「きいたこと」カードには、「入学式」であるときに音楽がながれていたことをかこう。</p> <p>□思考の場の工夫 関連付ける</p> <p>多様な観点に立って、経験したことを文章を結び付けてカードに書くことができる。</p> <p>5 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>◇自分のカードを並べて読み返させ、付け足したいことがないか、5つの観点のカードがあるかを確認めさせる。</p> <p>◇隣の席の友だちの「さく文のたね」カードを読み、「思ったこと」、「こうしたらいいと思うこと」を伝え合う。書きたい観点の「さく文のたね」カードについて、内容が思い浮かばないときは、友だちの助言から経験を思い起こして、文章に結び付けられるようにする。</p> <p>◇書いたカードを集めて、「おもいでボックス」に収める。</p>	<p>◎書こうとする題材に必要な事柄を5つの観点をもとに書いていく。</p> <p>〔書く能力〕(「さく文のたね」カード・行動観察)</p>
<p>★めざす児童の姿</p> <p>わたしは、①「したこと」②「見たこと」③「きいたこと」④「はなしたこと」⑤「おもったこと」をかんがえて、「さく文のたね」カードをかくことができました。次は、「さく文のたね」カードをもっとくわしく書きたいです。</p>		

(4) 板書計画

まとめ

「えから「したこと」「見たこと」「きいたこと」「はなしたこと」「おもったこと」をかんがえてカードにかくことができました。

え

めあて

「さく文のたね」カードにおもい出したことをかこう。

◎ えを見ておもい出したことをカードにかく。

◎ 「したこと」「見たこと」「きいたこと」「はなしたこと」と

つたえよう おもいで いろいろ 1年生

「おもいでブック」をつくらう

〈「さく文のたね」カード〉

わたしは、たねたねそうつとをうたいました。


たねたねそうつとでは、おどりもおどりました。


はっぴようかいでは、おきやくさんがいっぱいいた。


どきどきしました。


こいぬのマーチのがっそうをしました。


きょうあしたも1年生をうたいました。

①したこと 

②見たこと 

③きいたこと 

④はなしたこと 

⑤おもったこと 

つたえよう おもいで いろいろ 一年生

「おもいでブック」をつくろう

一年 くみ ()

① さく文にかきたいことをきめ、さく文のざいりようを「さく文のたね」カードにかくことができた。

とても まあまあ あまり まったく

4 3 2 1

② じゅんじよをかんがえながら、さく文をかくことができた。

とても まあまあ あまり まったく

4 3 2 1

③ べんきようして、おもったこと、二学年の学しゅうしてみたいことをかきましよう。

--	--	--